

## 第54回日本小児感染症学会

## 第54回学術集会レポート表彰式

研究委員会委員長

和田 泰三

第54回日本小児感染症学会総会・学術集会大会長

楠原 浩一

Young Investigator Award は学術集会に応募した会員で、筆頭著者が翌年4月の時点で40歳未満であり、まだ本賞を受賞したことのない方から、優れた研究を行い将来性の高い3名を選ぶものです。岡田雅彦選考長および山田全毅選考長の下、研究委員会で事前審査した10名の中から、学術集会における発表と質疑を踏まえて、全ての理事と評議員が審査員となり最終選考を行いました。3名の受賞者へは副賞として、ACPID や Asian Society for Pediatric Research (ASPR) などの国際学会に参加し研究内容を発表するための補助費として、10万円を贈呈いたします。なお、YIA 受賞者の中から希望のあった1名を Pediatric Academic Societies (PAS) 年次集会での発表者として日本小児科学会へ推薦することといたしました (PAS への推薦を受けることができた場合には、本学会からの副賞は出ません)。

本年度の YIA 受賞者と演題名は以下の通りです。

松田裕介先生 金沢大学小児科

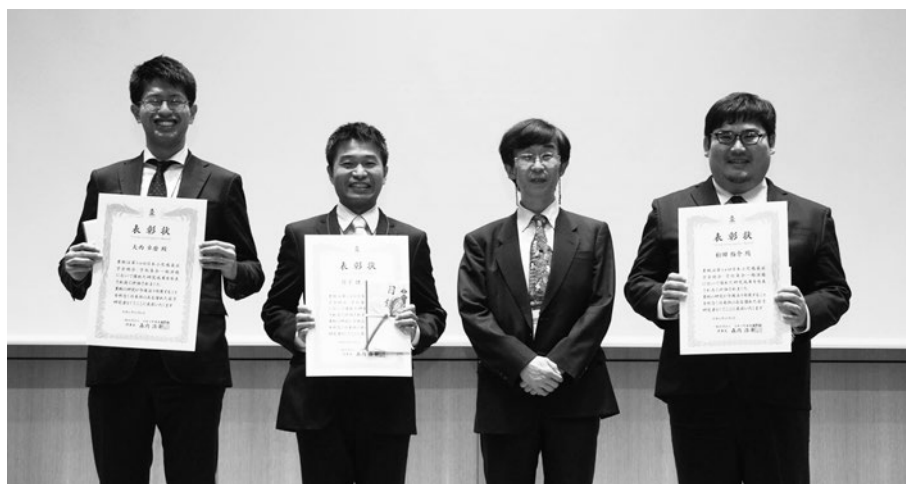
「本邦における MIS-C と川崎病のサイトカインプロファイル比較」

竹下健一先生 千葉大学真菌医学研究センター感染制御分野/千葉大学大学院医学研究院小児病態学/  
千葉大学大学院医学研究院総合医科学講座

「千葉県における血清型 24 による小児侵襲性肺炎球菌感染症の疫学的検討」

大西卓磨先生 慶應義塾大学病院小児科

「生体肝移植後の小児患者に対する生ワクチン接種後追跡調査」



YIA 受賞者 3 名

左から大西 卓磨先生、竹下 健一先生、森内 浩幸理事長、松田 裕介先生です。



#### ポスター賞受賞の4名

左から平手 友章先生，畑川 奈都樹先生，森内 浩幸理事長，小川 将人先生，大場 邦弘先生です。

次に、ポスター賞の表彰を行いました。こちらはYIAとは異なって年齢制限はなく、ポスターセッションの活性化や、YIAとは異なった観点から小児感染症研究に勤しむ会員を鼓舞することを目的としています。選出方法は以下の通りです。まず学術集会ポスター発表に登録された40演題から参加辞退等を除いた25演題を対象とし、橋本浩一選考長および長森恒久選考長の下、研究教育委員会が11題の候補演題を事前に選出しました。学術集会初日、全ての理事および評議員が審査員となって、実際にポスターを閲覧して投票を行い、集計後得点の高かった以下の4名を選出しました。

以下、本年度のポスター賞の受賞者と演題名です。

大場邦弘先生 公立昭和病院小児科

「地域医療支援病院による FilmArray<sup>®</sup>呼吸器パネルを用いた呼吸器ウイルスサーベイランスと流行状況の共有の試み」

小川将人先生 北九州総合病院小児科

「川崎病に伴う咽後浮腫と深頸部膿瘍におけるCT値の比較検討～両疾患の鑑別に対する病変部のCT値測定の有用性～」

平手友章先生 岐阜市民病院小児科

「DICとネフローゼ症候群を合併し集中治療を要した早期先天梅毒の1例」

畑川奈都樹先生 刈田豊田総合病院小児科

「当院における5～11歳の新型コロナワクチン接種後副反応および保護者への意識調査」



**研究プロジェクト助成金受賞者2名**

左から平出 智裕先生、森内 浩幸理事長です（杉山 裕一朗先生は Web 参加）。

続いて、研究プロジェクト助成金の説明をいたします。これは小児感染症・免疫にかかわる研究を奨励し援助することを目的に、平成 18 年度から開始しました。当初は研究奨励賞という名称でしたが、平成 23 年より名称変更しております。特に研究費の捻出が困難な一般病院や開業医の先生方の応募を強く歓迎し募集しているもので、受賞者には 40 万円の研究助成金が授与されます。義務として奨励金使途およびそれによる研究成果の概要を、学会誌において報告し、また研究成果は本学会学術集会においても発表していただきます。

田中敏博選考長および宮田一平選考長の下、厳正な審査を行い 2 名選出しました。本年の研究プロジェクト助成金受賞者と演題名は以下の通りです。

杉山裕一朗先生 名古屋第一赤十字病院小児科

「在胎期間 28 週以下の早産児の後天性サイトメガロウイルス感染に伴う症候、およびその発達予後を調査する多施設前向きコホート研究」

平出智裕先生 島根県立中央病院小児科

「COVID-19 小児自宅療養者への電話診療・HER-SYS に関するアンケート調査」



English Session 受賞者 2 名

左から大西 卓磨先生, 楠原 浩一大会長, 山本 梨沙先生です.

最後に, English Session の表彰について説明いたします. 尾内一信前理事長の発案により, 今年度の学術集会会長要望企画として English Session が開催されました. 一般演題として応募され, 英語での発表が可能であるとの意思を示された演題の中から, Research Session 演題 5 題, Case Session 演題 5 題を選出し, 英文抄録提出および英語での発表・質疑応答を行っていただきました. 学術集会プログラム委員の審査により, 各 Session の演題の中で最も評価の高かった演題 (2 演題) を優秀演題として表彰いたしました.

English Session の各 Part の受賞者と演題名は以下の通りです.

#### English Session 1 (Research Session)

Speaker: Risa Yamamoto

Affiliation: Atopy (Allergy) Research Center, Juntendo University Graduate School of Medicine/  
Juntendo University School of Medicine (5th year medical student)

Title: A point mutation of *NLRP1* (*NLRP1*-P1214L), identified in a patient with a rare disease, causes an auto-inflammatory disease through hyper-activation of inflammasome: molecular analysis of the pathophysiology

#### English Session 2 (Case Session)

Speaker: Takuma Ohnishi

Affiliation: Division of Infectious Diseases and Immunology, Saitama Children's Medical Center

Title: Actinomycosis of the middle ear in an immunocompetent child: Case report and literature review